

平成30年度 第2回熊本博物館協議会議事録

2019年3月13日(水) 10:00~

於博物館講堂

出席者

【委員】阿部会長、岩崎副会長、紫垣委員、島津委員、木川委員、富田委員、高本委員、宮本委員、田崎委員、松井委員、小林委員、梶尾委員、園田委員

【市】植木館長ほか、博物館職員

○開会

○館長挨拶

○議事

議事

(1) 平成30年度事業報告について

(2) 平成31年度事業計画について

(3) その他

【議事1 平成30年度事業報告について】

会 長：平成30年度第2回協議会の議題に沿って進める。

まず、平成30年度事業報告について説明をお願いしたい。

館 長：平成30年度の事業報告について説明

会 長：平成30年度の事業報告をご説明いただいた。

オープンで多忙な年度であったように思う。報告事項のため、意見聴取として発言をお願いします。

委 員：プラネタリウムの観覧者が多いのは天文関係者として嬉しい。

なぜプラネタリウムの観覧者が多い理由については何かお考えはありますか。以前からのつながりによるものなのか。

館 長：多くの熊本市立小学校に5年生の金峰山宿泊研修時のルートとしてプラネタリウム見学に来ていただいている。また、多くの幼稚園・保育園にも来ていた

だいている。また、ファミリーアワー（幼児向け投映）の需要が高いため、冬休み中には学習投映枠をファミリーアワー枠への変更を実施するなどした。半球形のドームで見る映像体験に対するリピーターも多いのではないかと思う。

委員：小・中学校の入場者が多いのは良い。九州国立博物館でも多くの若い人に来てほしい。一方で無料の入館者が増えても収益が上がらないという問題もあるが、受け入れに関する補助金制度などを利用しているのか。

館長：当館では、減免規定にて入場無料としており補填は特にない。

委員：塚原歴史民俗資料館の上塚展について、熊本市の偉人の掘り起こしとなる展示をこれからも行い、地域で総合的に評価できるようにしてほしい。

事務局：上塚修平の展示会では1度に5人の偉人を展示したが、スペースの関係上、各人物に対する資料が中途半端になった面もある。今後は個々の人物を深めた展示を行いたい。

委員：学校教育支援事業のお迎え事業について、希望が重なって実施困難な場合があったという課題もあり、今後学芸員がより多忙になることを踏まえ、退職した学校の先生やボランティアを非常勤で雇用して対応するなどの方法も可能ではないか。

館長：お迎え事業の希望が重なることがあるが、事前予約で対応時間をずらすなど、可能な調整をしている。現在はボランティア制度は導入していないが、今後必要に応じ検討していきたい。

委員：県立美術館では退職後の先生が学校向けの対応を行う立場で勤務しているが、学校・美術館双方の都合が分かっているのでとても助かっている。

館長：当館には学校現場出身の理工担当研究員がおり、学校との調整の役割を果たしてもらっている。

委員：リニューアルオープン時に展示の間違いがあった。学芸員は忙しいとは思いますが、相互チェックをするなど注意してほしい。また、個人のブログで波奈之丸の天井画が見えない、ラフカディオハーンの地藏祭りの展示が見栄えしないとの

意見が掲載されていた。

館長：ご指摘を受けた時はすぐに調査し修正を行っており、今後も確認作業は繰り返し行っていく。波奈之丸の天井画は見づらいが、天井画保存の観点から照度を落としており、代替手段としてモニターで内部の様子を再現して見せている。直接見ることはできないが資料の継承のためご理解いただきたい。

事務局：地蔵祭りの展示はもともと当時の子どもが手作りしたものをラフカディオハーンが感動したというエピソードの再現であり、その情景を再現したものである。

会長：ほかにご意見がなければ、平成31年度事業計画について説明をお願いします。

【議事2 平成31年度事業計画について】

館長：平成31年度事業計画について説明

会長：平成31年度事業計画をご説明いただいた。
ご意見ご質問があればお願いしたい。

委員：以前より人文系が主体となり理科の展示が物足りないなという印象で、岩石・鉱物の展示が寂しく感じる。地質の日などの展示会や企画が多くあるようなので、それらで補ってほしい。

館長：理工系の展示は少なくなったが、今回整備した体験型の実験工作室で補っていききたい。常設展示で扱いきれなかった展示に関しては企画展・特別展等を活用して掘り下げていきたい。

委員：通論考古学を講座で扱うのは良い。濱田耕作氏の著書「博物館」の中で、展覧会では必ず図録を作るべきという記述がある。学芸員の負担は増えてしまうが、何らかの形でリーフレットや図録を出してほしい。

館長：展示において図録は重要と認識している。企画展でもパンフや図録など何らかの形のものを作成し、特別展では販売できるような図録を制作していききたい。これらは博物館での知的な活動の蓄積となる。

会長：熊本市の教育力を上げていくことが重要で、博物館の展示会と教育普及活動に

よって教育力が上がっていくことを期待する。

委員：これだけの企画を考えていることに感服しているが、学芸員は大変なのではないかと思う。一方で人文系の展示では指定文化財となっているものなど、厳密に展示できる期間は決められている。公開期間が決められているその理由をぜひ来館者に説明して行ってほしい。

館長：保存という観点で理解してもらえるようにしていきたい。企画の量に関しては学芸員の負担が大きいのではと心配をいただいたが、これまで5年間の長期休館していた責任を果たすべき時期として、働き方改革も考慮しながら職員全体で取り組んでいきたい。

委員：展示資料を見ての感想が難しいとか簡単とか、展示の量が少ないとか多いとかそういったものに偏りがちだが、来館者がどんなことを学んだかが重要。知識を一方的に教えるのではなく、来館者が自身の中で学びを深めていくように展示を作っていると思うが、そういうものが表に出てくるようにするにはどうしたらよいか考えていく必要がある。

委員：運営面について、平日の入館者は少ないと思うが、動植物園は夜間開園をしている。勤務世代が参加しやすい時間帯にプラネタリウムと実際に星を見るような企画なども検討してほしい。

館長：リニューアルオープンの日、旧細川刑部邸のライトアップに合わせて夜間開館し、ナイトミュージアムを行った。今後も周辺施設の催しと絡めながら夜間開館等の企画を検討していきたい。

委員：博物館が知られていないという話があるが、ポスターやチラシなどの熊本博物館という文字の表示が小さいのではないかと。熊本地震に関する展示も地震が専門なので特に思うのだが、インターネットを見ればすぐに出るような情報ではなく、活断層と熊本地震がどのように関係しているなどもう少しきちんとした展示にした方がよいと思う。また、売店の商品について大人が欲しくなるようなもの、昆虫展のときには昆虫標本や、化石や岩石・鉱物の標本などを置いたらどうか。また、火山の地質図や学会で販売しているような専門書などを置いてみてはどうか。

館長：熊本博物館の文字が小さいとのことについては、今後デザインを行う中で注意

していきたい。熊本地震の展示については、今後博物館としてどう見せていくのかということについては検討していく。売店の商品については、オープン時から売店側との学芸員との協議を実施しており、今後も少しずつ変えていく予定である。

会 長：入口の考古から歴史、民俗という中で動画を再生する機材があるので、地震に関するものも補完していけるのではと思う。総合博物館であるので概要は伝えないといけないし深掘もしないといけないので今後手法を考えていく必要がある。

委 員：学芸員は大変だと思うが、次の協議会でその成果を発表してほしい。一般の方からの良い意見も悪い意見も受けとれるような仕組みはあるのか。

館 長：前回基本方針で示したが、成果に対する評価と検証を次回お示ししてご意見をいただきたい。また、いろんな形でアンケートなどを取り、協議会の中でも議論していただきたい。

委 員：学校の先生からは展示・事業については好評である。お迎え・お出かけ事業については教育委員会の e-net で今月のプログラムのお知らせを掲示するとよいのではないか。

委 員：熊本県博物館ネットワークセンターとして今後も熊本博物館とは良きパートナーとして一緒に事業ができればと考えており、我々の課題としてはまず博物館を知ってもらわないといけない。ネットワークセンターとしても色々と考えているのでこれからもよろしくお願ひしたい。

会 長：他にご意見がないようでしたら、その他はなにかあるか。

館 長：次回は7月に役員の改選となるため、その前に協議会を開催したい。

会 長：これで、議事の進行を終わる。

○閉会